



株式会社 ミライト

## 株式会社ミライト

情報通信設備構築・電気設備工事のパイオニア。通信インフラ建設をはじめ、クラウド・Wi-Fiソリューション、LAN/WAN構築、ソフトウェア開発から太陽光発電・EV充電・ビル電気設備等、ICT技術を核とし設計・調達・建設、運用・保守まで、全国展開でトータルにサポートする「総合エンジニアリング&サービス」会社です。

本社：東京都江東区豊洲五丁目6番36号

設立：1944年12月21日

資本金：56億1091万円

従業員数：連結 4,931名 単独 2,645名 (2017年12月末時点)

URL：http://www.mrt.mirait.co.jp/

(取材日：2014年9月)

## POINT

既存システム資産を有効活用し、迅速かつ効率的にBI環境を構築

1

全社的な工事状況や原価情報の可視化を実現し、大幅に業務を効率化

2

全社情報活用基盤の実現に向けたプラットフォームをWebFOCUSで実現

3

向かって左から大野様、北村様、上野様、和泉様

## グループ企業の経営情報の可視化にWebFOCUS 情報の集約と分析を可能にした 全社情報活用基盤を迅速に構築

2012年、3社の事業会社再編成により誕生した株式会社ミライトは、システム統合の一環として情報系システムの一元化に取り組みました。当初構築したEUC環境では、使い勝手や全社レベルでの活用に課題が残りました。そこで、WebFOCUSを導入してユーザのニーズに即したレポートの出力機能を実装し、全社向けの情報活用基盤を整備しました。その結果、現在では業務現場における情報活用の機運が急速に高まっています。

## 課題

## 対策

## 効果

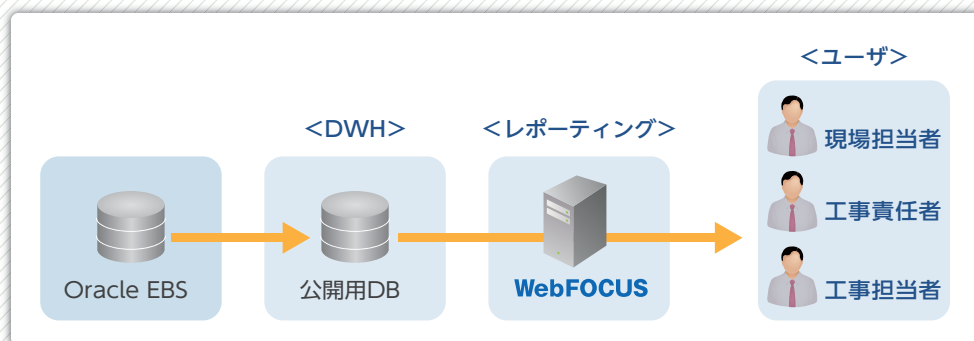
- グループ企業全体の情報活用基盤が整備できていなかった
- 現場でのデータ活用にはデータの二次加工が必要なため、情報活用が進まなかった
- 経営層/管理者/現場それぞれのニーズに即した形で情報提供ができていなかった

- 既存資産を有効利用できるBIツールを導入し、情報活用基盤を効率的に構築
- 開発生産性の高さやサポート面を評価し、数あるBIツールの中からWebFOCUSを採用
- アシストが提供する技術サポートを有効活用し、システムの内製化を実現

- 業務現場における原価意識の向上と情報活用の促進を実現
- 個々の工事状況に関する情報収集のスピードが向上し、意思決定の迅速化を実現
- 全社的な情報活用基盤が整備され、情報活用に向けた取り組みが加速

業種：建設業  
データソース：Oracle Database  
利用業務：原価管理、  
プロジェクト進捗管理

システム概要



# WebFOCUS

## グループ全体の共通通報活用基盤をいかに実現するか？

ICTソリューション事業、環境・社会イノベーション事業、モバイルネットワーク事業、通信インフラ事業など幅広い事業を展開する株式会社ミライト。同社の発足は通信キャリアのパートナーとして、通信インフラ設備の構築を中心に半世紀以上にわたり事業を展開してきた、大明株式会社、株式会社東電通、株式会社コミュニチュアの3社が2010年10月に経営統合、持株会社「株式会社ミライト・ホールディングス」を設立したことに端を発します。その2年後には、事業会社3社体制から2社体制（株式会社ミライト、株式会社ミライト・テクノロジーズ）に移行しています。

経営統合の過程で、各社の既存システム資産を有効活用しながら基幹系／情報系システムの全社統合を進めつつ、情報系システムの一元化にも早くから取り組んできました。全社ERPとして運用するOracle EBSのデータベースを基にDWHを構築し、BIツール「Oracle Discoverer」を通じて社員がデータを参照できる仕組みを構築しました。しかし、業務改善推進本部 情報システム部門担当部長 和泉良典氏によれば、この仕組みにはいくつかの問題点があったといいます。

**和泉氏** 運用形態がグループ会社ごとに分かれていたため、グループ全体の経営指標を横串で見ることができませんでした。また、データをそのままダウンロードすることはできても、それを意味のある指標として活用するためにはデータの二次加工が必要で、必ずしもすべての社員にとって使いやすい環境とは言えませんでした。そのため、情報活用が社内で思うように進まなかったのです。

## 迅速な稼働環境の構築と充実したサポートが決め手となり「WebFOCUS」導入を決定

これらの問題点の解決に向けて検討した結果、既存の資産を最大限に活用しながら、「全社的な情報活用基盤」と「ユーザにとって使い勝手の良い情報活用環境」を実現するためには、すでに利用中のOracle DiscovererのDWH環境に、さらに新たにBIツールを追加導入する方法が最も効果的との結論に至ります。

早速、BIツールの選定を開始、いくつかの製品を比較検討した結果、最終的に導入候補として

残ったのは2製品。そのうちの1つが、アシストが提案した「WebFOCUS」でした。SI事業本部 社内システム部 北村昌弘氏は、この2製品を約2カ月に渡りトライアル評価を実施し、最終的にWebFOCUSを採用することにした際の印象を次のように振り返ります。

**北村氏** WebFOCUSは非常にシンプルで一目でわかりやすい画面を作成することができるため、経営陣の評判も良く、おかげでBIツール導入の社内稟議がスムーズに通りました。また、新たなデータベース構築が不要で、既存のOracle Discoverer環境をそのまま活用して迅速に環境を立ち上げられる点もWebFOCUSの大きな魅力でした。アシストにきめ細かくかつ迅速に技術サポートを提供いただいた点も、WebFOCUS採用を後押しする一因になりました。

## 経理部門／事業部門ともに工事の原価管理に費やす工数が激減

社内決定を受けて早速、2013年10月にWebFOCUS導入プロジェクトが立ち上げられました。開発に携わったSI事業本部 社内システム部 上野幸恵氏によれば、アシストの充実した技術サポートのおかげで、導入プロジェクトは概ねスムーズに運んだといいます。

**上野氏** WebFOCUS独自の画面開発の手法など、当初習得に時間を要した箇所もありましたが、アシストにサンプルを作成していただき、それを参考にするという形で徐々にスキルを習得していきました。ほどなくして、すべての開発を社内内で内製できるようになりました。

翌月より順次、WebFOCUSを利用した社内情報活用の仕組みを実現していきました。まずは、その当時社内で行われていた「原価の見える化プロジェクト」とリンクする形で、工事の原価や進捗状況をリアルタイムで可視化できるレポート機能をリリースしました。リリース当初から現場ユーザの評価は上々で、中でも原価管理のために多くの作業負担を強いられてきた経理部門で、非常に高い評価を得ています。

**和泉氏** WebFOCUSの導入前は、毎月の締め日を持ってから、経理部門がOracle Discovererから原価情報を取得して工事原価などの情報を整理し、

それを各事業部門にフィードバックしていました。しかし導入後は、工事の原価状況がいつでもリアルタイムで参照できるため、このような作業がほぼ不要になり、決算早期化にも寄与しています。また、事業部門でも、経理部門からの情報提供を待たなくても自分で担当工事の原価を管理できるようになり、従来より3営業日ほど早い状況把握と対応が可能になりました。

## 経営層向けのレポート作成や自由検索機能の実装も視野に

今回構築された新たな情報活用基盤は、すでに大きな効果を上げていますが、SI事業本部 社内システム部 担当次長 大野一広氏によれば、今回の取り組みはあくまでも「第一歩」に過ぎないといいます。

**大野氏** 今回のWebFOCUS導入により、まずは全社的な情報活用のプラットフォームが整備できました。現時点ではまだ、現場ユーザ向けに固定帳票を出力するという用途が中心ですが、今後は経営陣が利用する経営レポート機能や、ユーザが自由な切り口でデータ分析を行える自由検索機能なども組み込んでいきたいと考えています。また、利用対象データもERPだけでなく、他の業務システムのデータもWebFOCUSに集約し、より広範なデータの見える化と活用を推進していきたいです。

同社では現在、WebFOCUSの進化版である「WebFOCUS EVO」の採用が検討されています。WebFOCUS EVOは、WebFOCUSが備える基本機能に加え、よりグラフィカルなユーザレポートの作成や、ユーザによる自由検索の機能が簡単に実現できるようになっています。こうした機能を活用することで、経営指標をより迅速にかつ直感的な形で把握できる経営レポートを作成し、より経営に貢献できる情報基盤の整備が進められようとしています。

**大野氏** こうした計画を推進していくためにも、WebFOCUSの利用法の高度化やバージョンアップには前向きに取り組んでいきたいと考えています。そのためには、アシストには今後とも変わらぬ手厚いサポートをぜひお願いしたいと思います。

お問い合わせは **株式会社アシスト**

URL: <https://www.ashisuto.co.jp/webfocus/> E-Mail: [ibi@ashisuto.co.jp](mailto:ibi@ashisuto.co.jp)

東京 〒102-8109 東京都千代田区九段北4-2-1 市ヶ谷東急ビル	TEL:03-5276-3653	大阪 〒530-0011 大阪市北区大深町4-20 グランフロント大阪タワーA 13F	TEL:06-6373-7113
札幌 〒060-0003 札幌市中央区北3条西4-1-1 日本生命札幌ビル13F	TEL:011-281-1161	広島 〒730-0011 広島市中区基町12-3 COI広島紙屋町ビル 3F	TEL:050-3816-0974
仙台 〒980-0013 仙台市青葉区花京院1-1-20 花京院スクエア 19F	TEL:050-3816-0970	福岡 〒812-0013 福岡市博多区博多駅東2-6-1 九勤筑紫通ビル 9F	TEL:092-481-7156
名古屋 〒460-0003 名古屋市中区錦1-11-11 名古屋インターシティ 4F	TEL:052-232-8211	沖縄 〒900-0014 那覇市松尾1-10-24 ホークシティ那覇ビル4F	TEL:050-3816-0976
金沢 〒920-0853 金沢市本町2-15-1 ボルテ金沢 8F	TEL:050-3816-0972		